

愛知東邦大学 シラバス

| | | | |
|--------------------|----------|-----------------------------|----|
| 開講年度(Year) | 2024年度 | 開講期(Semester) | 後期 |
| 授業科目名(Course name) | 世界の自然と産業 | | |
| 担当者(Instructors) | 松野 正太郎 | 配当年次(Dividend year) | 2 |
| 単位数(Credits) | 2 | 必修・選択(Required / selection) | 選択 |

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

「世界の自然と産業」を保全するという観点から、地球環境問題への対応とSDGsの推進について講義を行う。地球環境問題は、温暖化・物質循環・海洋環境の破壊など、あらゆる問題を内包する。本講義では、いかに人間社会が環境に影響を及ぼしてきたのか、いかに問題を克服してきたのか、また、環境問題解決に向けた社会システムはどうあるべきか、そのためにどのような取組が必要なのかについて「持続可能性」という視点に立ち、SDGsを推進するための原則・諸手法について考察する。講義ではできる限り個別法制や具体的事例を取り上げながら、受講生の関心を高め、理解が促進するよう心がける。なお、この講義はすべてリアルタイムのオンライン形式にて実施する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態(Class form) | 講義 |
| 授業の方法(Class method) | リアルタイムのオンライン授業のため、必ず手元に講義資料（教員が事前に受講生に提供）を用意してパソコンで出席すること。講義資料には空欄を設けており、キーワードや重要な説明などについて受講生が書き込みやメモをしながらテキストを作り上げる形式にて授業を進める。 |

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
|---------|--------------|---|---------------|
| 第1回 | オリエンテーション | 環境問題の姿と捉え方、「ローカルな環境問題」と「グローバルな環境問題」 | □ |
| 第2回 | 地球環境問題概説① | 「持続可能な開発」の概念、地球サミット・リオ宣言 | □ |
| 第3回 | 地球環境問題概説② | 環境基本法、ESDの概念 | □ |
| 第4回 | SDGsの基礎① | SDGsの考え方と特徴 | □ |
| 第5回 | SDGsの基礎② | SDGsに関する各主体の取組 | □ |
| 第6回 | SDGsの基礎③ | SDGs推進の課題 | □ |
| 第7回 | 脱炭素社会とエネルギー① | 京都議定書・京都メカニズム、温暖化対策をめぐる国際的動き、パリ協定（SDGsの目標11、13） | □ |
| 第8回 | 脱炭素社会とエネルギー② | 国内における温暖化対策、再生可能エネルギーの推進、原発問題（SDGsの目標11、13） | □ |
| 第9回 | ごみ問題と循環型社会① | 循環型社会形成推進基本法・各種リサイクル法・資源生産性・3R（SDGsの目標12） | □ |
| 第10回 | ごみ問題と循環型社会② | 名古屋の廃棄物減量化取組（SDGsの目標12） | □ |
| 第11回 | 環境政策の基礎① | 環境政策の変遷（SDGsの目標17） | □ |
| 第12回 | 環境政策の基礎② | 環境政策の目標・原則と主体（SDGsの目標17） | □ |
| 第13回 | 環境政策の基礎③ | 環境政策の手法①（SDGsの目標17） | □ |
| 第14回 | 環境政策の基礎④ | 環境政策の手法②（SDGsの目標17） | □ |
| 第15回 | まとめ | SDGsの推進に向けて | □ |

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前に提供される講義資料について目を通し、関連する環境問題・時事問題について下調べをしておく（2時間程度）。特に新聞にはよく目を通し、問題意識を高めておくこと。講義終了後は、新たな発見や各自でさらに調べたいことなどをまとめ、インターネットや文献を通じより深く調べ理解を深める（2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

講義中の質問等については、チャット機能を用いて授業中に随時受け付ける。教員は質問に対して、適宜フィードバックする。可能であれば

ば、講義時間中にリアクションペーパーを書いてもらい、疑問点や優れたコメントについては次回の講義で紹介する。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|--------------|-------------------|---|
| 知識・技能 | ◆ 2019全学共通DP1 | SDGsを推進するために、各自が日常生活において実践できる取組を提案し、実践できるようにする。 |

■成績評価 (Evaluation method)

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験 (in-class exam) | その他(Other) |
|--------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|------------|
| | | 80% | | 20% |

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

「その他」は、授業取組等により評価する。

■テキスト(Textbooks)

| No. (No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN (ISBN) |
|-----------|---|-------------|
| 1 | 特に指定はしない。 教員が講義資料を提供し、受講生が各自DLし準備する。 | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

■参考図書 (references books)

| No. (No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN (ISBN) |
|-----------|---|---------------|
| 1 | 環境省編 (2023) 『環境白書 循環型社会白書/生物多様性白書<令和5年版>』日経印刷 | 9784865793673 |
| 2 | 倉阪秀史 (2014) 『環境政策論 第3版』信山社 | 9784797253733 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |